

# 学燈 *gakutou*

【第 2 号】



## 院生が紹介する「山口大学教職大学院の授業」 ～前期授業を中心に～

【学校経営コース】

### 学校関係法令の適用と課題

この授業では、スクール・コンプライアンスの担い手として具体的問題事例について法的に考え、分析し、解決に導くためにはどうすればよいかを考えました。授業の形態は、院生が議論したい話題を提議し、そのことについて議論することを通して、解決方法を探るというもので、課題設定能力やリーダーとして議論をリードするファ

シリテーターとしての力を養うことができました。

また、学校で起こる具体的問題事例を、法的視点を踏まえつつ、海外の事例と比較検討することを通して、法的根拠に基づいた分析を行う力と、実践的な

課題解決の力の定着を目指しました。例えば、不登校の問題を検討した際に、法的な視点からの考察に

加え、アメリカにおける不登校への対応と比較を行うこ

とで、固定観念が打破され、活発な議論が交わされました。授業のまとめとして、学校に課せられている今日的課題を取り挙げ、スクールリーダーとしてそれらの課題にどのように対応するべきかについて論じました。佐々木先生から授業前に頂いた資料等を読み、課題意識をもって授業に臨んだため、主体的で活発な意見交換が行われました。



専攻長 佐々木 司先生

# カリキュラム開発、授業デザインと評価 A



前田 昌平先生

授業実践の振り返り、教育目標や児童生徒の実態、他教科とのバランスを考慮した教科カリキュラムの改善・開発を行いました。学校経営コースには、小学校籍、中学校籍、小中一貫教育校籍、高等学校籍の院生がいます。それぞれの院生がこれまでの実践を紹介しながら、教科横断的な指導や異校種連携のカリキュラムについて考えることができました。実践発表では、「かかわり合いのある考える授業」「古典の世界への

誘い」「キャリア教育の視点を授業に生かす」「タブレット端末の活用」「説明する活動」「考える楽しさのある算数」「アクティブ・ラーニングのある授業」「子供の側に立った授業の取り組みと生徒の実験考察ノート」など、各学校での実践を分

析、協議することを通して、学習力を高める授業設計について学びました。前田先生からは、院生の学びを深めるためのたくさんの素材を教えて頂き、「主体的、協働的に学ぶ姿」を具体的にイメージしながら授業デザインをすることができました。



# 教育相談・特別支援教育の理論と実践 A

田邊先生の授業では「脆弱な自我」、「新型うつ」、「シックマザー」等、現代の生徒の見立てを行う際のキーワードを中心に授業を展開していただき、またたくさんの参考文献をご紹介いただく中で、現場で出会った児童・生徒のことを思い出す機会が多々ありました。「あの生徒についてはそう考えれば良かったのか」「このことを知っていれば違う対応もできたの

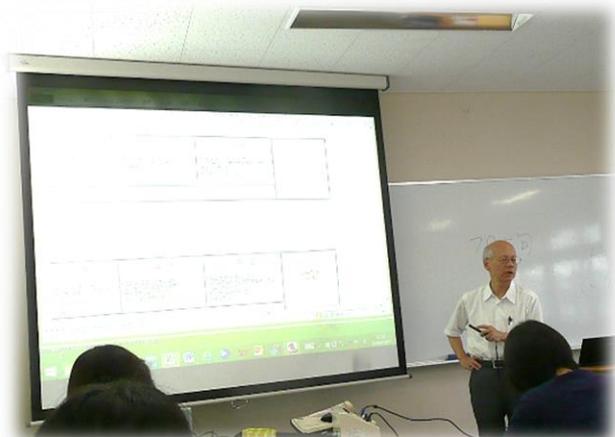


田邊 敏明先生

に・・・」等、授業中に様々な思いが胸中を去来しました。

特に、現代の教育相談上あるいは生徒指導上の問題行動の背後に「愛着」の問題が深く関わっており、「見捨てられ不安」が問題を複雑にしていたり、愛着障害の隠れ蓑として「起立性調節障害」の診断が使われたりしている、というご指摘には深く納得がゆき、集団討論は自然と熱のこもったものとなりました。ブリーフセラピー等の手法についても知ることができ、ケースによって手法を選択したり、組み合わせたりして対応できるようになりたいと思いました。

木谷先生の授業では、神経発達障害について、理論から実践まで幅広く教えていただきました。適切な時期に適切な支援を受けることの重要性がよく分かりました。支援の目標は「安定させること」、という特別支援の核心を具体的に教えていただき、また、環境調整のポイントについての具体的な示唆を沢山いただきました。印象的な言葉がたくさんあり、その一つひとつが心に重くのしかかりました。自分の見識や視野をもっと広げたいという思いを強くさせられる授業でした。



木谷 秀勝先生

## 学校評価と学校改善

学校評価が生まれた背景、評価・改善がなぜ求められ何を期待されているのかという大きな視点で「学校評価」の全体像をつかんだ後、山口県教育委員会「学校評価ガイドブック」「教職員評価の手引」、文部科学省「学校評価ガイドライン」等の資料を教材として、学校評価への理解を深めていきました。そして、最後に実際の学校評価書を用いて具体的に内容の検討を行いました。これまで学校評価のことをほとんど知らなかったという院生が多く、「開かれた学校づくり」、「学校の説明責任」、「学校評価システム」等が自分の行っている教育活動とどのように結びついているのかを考えたことの



板垣 育生先生

ある者もほとんどいませんでした。

しかし、本授業を通して、「スクールリーダーが全教職員に学校評価の意義を伝え、自分たちの学校や教育現場が置かれている状況を分析し、チーム全員が同じ方を向いて進む体制づくりをしなくてはならない」という意識を、院生全員で共有することができました。学校評価書作成の演習を通して、理想の学校像を思い描きながら学校評価書を作成することの大切さや「この目標をみんなで共有したい」、「この評価基準を達成したい」という気持ちの大切さを学びました。「学校評価」は「学校改善」のために行う、という言葉の意味を実感することができた授業でした。



## 【教育実践開発コース】

# 授業内容構成特論

本授業のねらいは、校種・教科を限定しないで授業内容を構成する要素を探り、原則的で基本的な教授方法を学習することです。この授業の特徴は、毎回違う先生に教えていただけることでした。そのため、各先生方のご専門の教科や分野について、知識を幅広く獲得することができました。異なる校種の授業実践を体験したことがある人は少ないと思います。この授業では実際に模擬授業を体験したり、先生の講義を聞いたりする中で、異校種同士のつながり、他教科とのつながりを知ることができ、教材研究や授業を構成し、指導案を作成するための新たな知見を得ることができました。特に教材研究についての意識が変わりました。素材を教材として価値づけるための視点を教員が持っていないと、素材の価値を引き出すことはできません。児童・生徒の実態を考慮することの大切さを自覚し、児童・生徒に合う教材づくりへの思いが強くなりました。



# 教科カリキュラム開発,授業デザインと評価B

本授業では、「新しい授業の提案」をテーマとして、院生一人ひとりが模擬授業を行い、受講者全員で協議しました。様々な校種、教科を専攻している院生がいるので、自身の校種や教科に留まらない、新しい視点や考え方を聞くことができました。学部時代に行った模擬授業

では、教員目線からの改善を行うことが多かったですが、この授業

は、学校実習に週2回通っていることと、より実践的な内容の授業から、生徒の視点に立った授業改善や、発問、机間指導等の細かい部分まで考えることができ、更に深い協議となりました。また、自身の学校実習での実践と繋げて、理論と実践の融合を図りました。



栗田 克弘先生

で

## 生徒指導の実践と課題

本授業の前半では、生徒指導の本質を理解するために、生徒指導を機能させることの意義と理論を踏まえた上で、各々の実習校での取り組みを共有・協議したり、元校長先生からご講話をいただいたりして、生徒指導についての学びを深めました。

後半では、「チーム学校」の組織についての基本的な理解を図り、学校・家庭・地域その他の関係機関との繋がりの大切さや、取り組みについて深く考えました。適応指導教室の指導員の方と、少年安全サポーターの方に直接ご講話をいただく機会もあり、学校外の協力

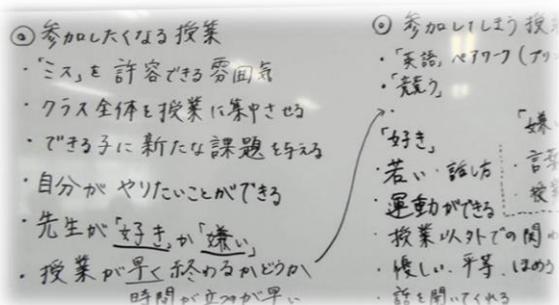


松岡 敬興先生

機関がどのように学校と関わっているのか、また生徒をどのように地域の中で育てていこうとしているのかなど、各実習校の様子と照らし合わせながら考えることで、実習校の生徒指導に参画していることを再認識できました。この授業と学校実習での体験を通して、生徒指導についての見方・考え方が広がりました。

# 授業技術の理論と実践

授業は、映像や文字などの具体的な授業実践記録を学習の素材にして、教育の在り方について話し合いながら考えを深めていく形式で進みました。授業の中で提示された授業映像や授業記録に院生全員が衝撃を受けました。子どもたちが生き生きと学習しており、深く考えている様子が伝わってきたからです。そして素材をもとに受講生の疑問や気づきを出し合い、それらを整理分類して課題を設定し、みんなで考えを深めていきました。受講生同士で主体的に話し合い、意見を聞き合うことで素材をとらえる視野が広がり、さらに「もっと知りたいことや調べたいこと」が明確になっていきました。また、前回の話し合いのまとめやそれぞれの感想を基に、素材の価値を教材に結びつけるために教師が身に付けておくべき力や教員が設定すべき授業の目標等、子どもに対して何が私たちにできるかについて振り返りを行うことができました。前田先生は、受講生の疑問に対し実践を例に引きながら、分かりやすく解説をしてくださいました。映像や文字による授業記録の中の教員は、子どもの自主的な学びを生み出すために、彼らの学びの状況を把握していました。「子どもの様子をよく見て働きかけること」「初期段階での基礎基本の定着を大



事にすること」「目の前にいる子どもの発言や学習の深まりに応じて、授業のねらいを達成するための手立てをいくつも用意すること」などが必要であると学びました。講義では、授業を深化・活性化するための在り方について議論していきました。

## お知らせ

山口大学教職大学院 中間発表会

日時 平成29年 2月18日(土)

場所 山口大学 教育学部



※詳しい時程については、後日お知らせいたします。